

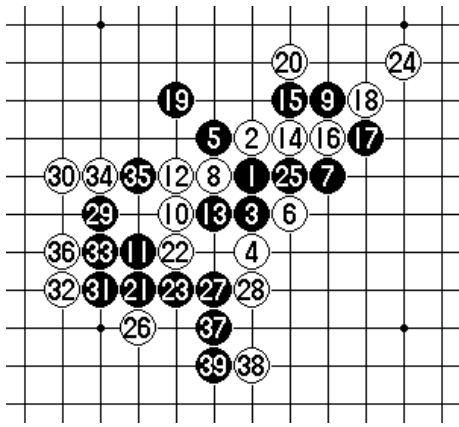
# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ●第4回● 新・世界チャンピオン

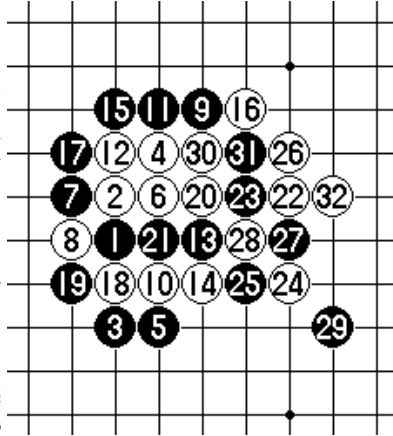
新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

さて、先の世界戦で新チャンピオンが誕生した。早速新チャンピオンのタイムラと、ライバルであるチングンの棋譜を見てみよう。  
黒勝 エストニア タイムラ  
白 日本 岡部 寛  
黒39にて白投了



岡部君の白14の作戦をさりとかわしている。それでも黒19の突き出しや、黒29の逆引きなどセンスのよさが伺える。

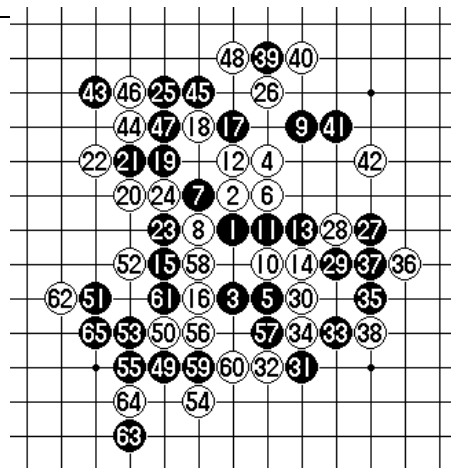
黒 瑞典 M・カールソン  
白 勝 エストニア タイムラ  
白32にて黒投了



次はM・カールソン戦から。黒11は瑞典チームの作戦だった。白14・16はその上をいく作戦だった。これは事前の研究なくして打ち切れない。(連珠ワールドの自戦記では、黒17が敗着で以下の勝ちを研究していたと述べている)白26と四三を打たせて勝つのは気

分がいい。白32まで堂々の寄り切りだ。

黒 勝 エストニア タイムラ  
白 ロシア スシユコフ  
黒65にて白投了

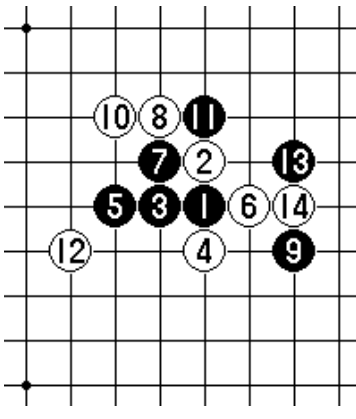


優勝決定戦となったスシユコフ戦では、中盤以降の打ち方が注目される。

白20が少し弱く、以下黒は主導権を握った。黒27の四ノビなどはメリテイの打ち方にかなり影響されていると思われる。そう、彼はメリテイの連珠教室の優等生で、そこで強くなった。善悪は抜きにして、打ち方

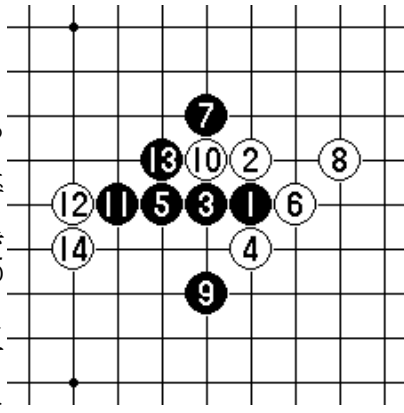
を確立するのは迷った時に指針となる。効き筋を残して黒43から左上をうまく処理(白48が絶対)して黒49に向かったのはうまさを感じさせる。黒65までスシユコフを破り、逆転トップに立って優勝を果たした。

次はもう一人の注目株、ロシアのチングンの棋譜を見てみよう。彼と言えば、雲月の作戦が注目を浴びた。  
黒 日本 岡部 寛  
白 勝 ロシア チングン  
白14以下略 白勝

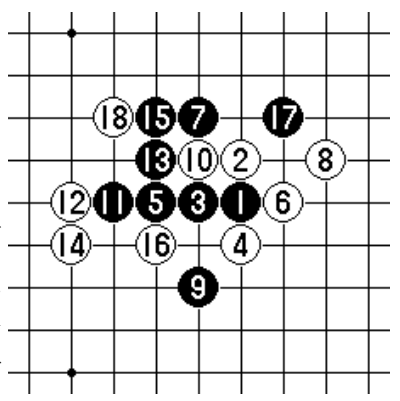


代表的なのが岡部君との一戦。黒7で岡部君は定石を避けたが、白14まで打た

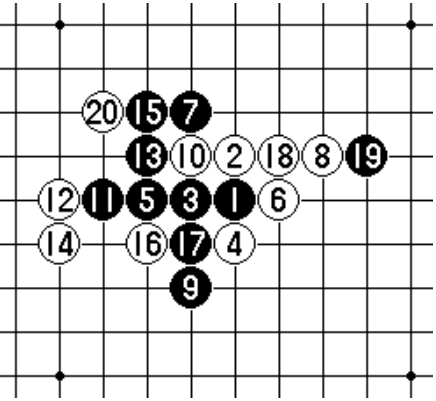
いる。そこで、いろいろ研究した成果を見てもらおう。白8、10の作戦に対し黒11を中止めはこういう場合うまくいかず、黒11・13と外から欲張るのが常道である。普通はこれで勝ちなのだが、この場合は三々が邪魔になつて一筋縄ではいかない。



とりあえず黒15と三々を解消すると、白16に止められてこれが四追い含みになる。それを黒17で解消しようとしても、冷静に白18に止められるとこれ以上何もできない。(黒を六腐にすることもできる)

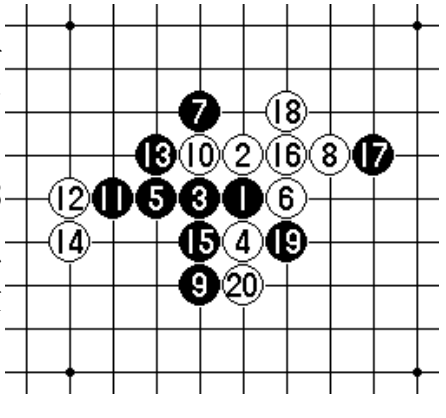


さりとして、黒17で冷静に休んでも、白18と伸びられ、白20から止められれば前図と五十歩百歩だ。

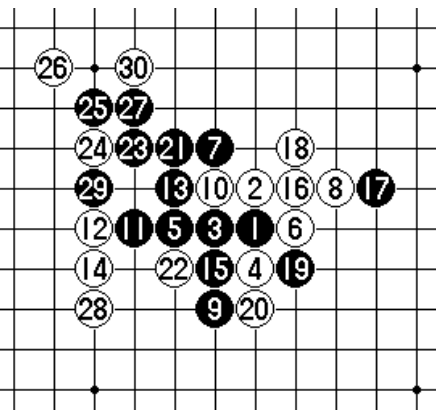


そこで工夫したのが単に黒17と休む手。ちなみに、このあたりは久々に行つた

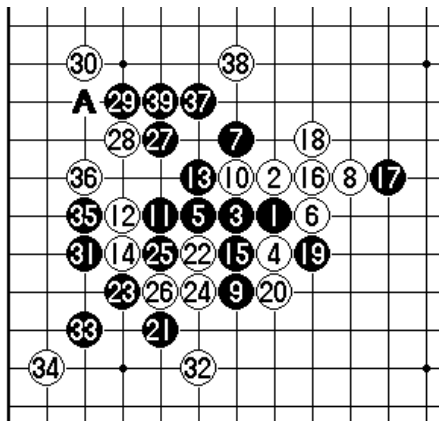
城西連珠会で中村氏らと研究した内容である。



対して白18まで攻めても黒19と止めれば四追いが残るといのが黒の主張だが、これに白20と防ぐのがなか



なかうるさい。黒21〜27まで簡単なようだが、白28・30が焦点を四三々にする粘りのある防ぎで勝てない。



四苦八苦して見つけたのが黒21・23と含む手。白24は25も強防だが、それには31と引いて最後は右辺隅までなだれ込んで勝てる。譜の24なら黒27と打てるのがポイントで、勝ちが出る。また、高川さんも黒21から37、(白22)、黒Aで勝ちを見つけられている。こちらのほうが早い。細かく説明すると紙面が足りないの各各自研究ください。